令和４年度（2022 年度）第２回
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会　議事概要

日　時：令和５年（2023 年）３月 23 日（木）15：00～16：00
場　所：かでる２．７　７階　７５０研修室
出席者：別添「出席者名簿」のとおり
次　第：別添「次第」のとおり
議　題：議題１　第４期事業実施計画（令和２年度～令和６年度）について
議題２　令和５年度事業計画（案）及び事業予算について
議題３　地域活動支援事業　令和５年度（2023 年度）活動計画及び令和４年度（2022 年度）完了地区に係る点検・評価報告書について
議題４　その他
議　事：
（１）議題１　第４期事業実施計画（令和２年度～令和６年度）について
ア　事務局から資料３に基づき説明するとともに、「４　事業評価と対応」の「外部有識者の所見」欄について事務局案の確認・修正を依頼。
イ　質疑応答（有・無）
山本座長）地域活動支援事業について、令和４年度が０地区となっているが、その理由についての整理は行っているのか。
事 務 局）理由としては、新型コロナウイルスの影響で、掘り起こしたい地区に対して伺う予定ではあったが、現地の方からも今の時期には対応が難しいとの回答もあり、動きたい時期に動けなかったというものである。
ただし、年度当初、新型コロナウイルスの影響で、新規地区の掘り起こしについて、話の出ていた羅臼地区に対して伺うことが出来なかったが、今年の １ 月に羅臼町役場と話し合いをもち、意識醸成に向けて動き出そうということで話がついている。また、後志の５町で意識醸成をしたいとの相談があったが、何をしたいかなど、内容について不明な点が多いため、来年度早々に伺う予定である。
大熊委員）後志の５町とは、どこのことか。
事 務 局）余市、蘭越、京極、共和、倶知安の５つ。ただし、倶知安は中山間ではないので、行う場合はどこかと一緒でないと実施できない。
大熊委員）意識醸成を行いたいといってきているのは、役場なのか。
事 務 局）指導農業士会からの要望である。
大熊委員）それは、５町まとまって何かしたいということなのか。
事 務 局）５町の農業士が集まって話をしている中で、出てきている話なので、５町まとまってやりたいとの希望がある。ただ、こちらとしては範囲が広すぎるため、逆にまとまりがなく、何も出来ない恐れがある。意識醸成を５町でやるのはかまわないが、それをそれぞれの町に持ち帰ってもらい、活動

につなげていって欲しい。

山本座長）新規地区の掘り起こしについて、何も行動をしているわけではないので、外部有識者の所見について、コロナの影響についての文言を加えること。

（２）議題２　令和５年度事業計画（案）について

ア　事務局から資料４に基づき説明。

イ　質疑応答（有・無）

（３）議題３　地域活動支援事業　令和５年度（2023 年度）活動計画及び令和４年度（2022 年度）完了地区に係る点検・評価報告書について

ア　事務局から資料５及び資料６に基づき説明し、資料６については事務局案の確認・修正を依頼。

イ　質疑応答（有・無）

山本座長）オホーツク広域地区と本別地区について、出来ていないことがあるようだが、本当に３年で終わってよいのか。現地から、事業の延期についての声は出ていないのか。

事 務 局）オホーツク広域地区からは、延期できないのかという声は出ている。原則３年という活動期間ではあるが、コロナの影響がこれほど多く出ているとは、当方も想定外である。本別地区については、延期についての声はこちらに届いてはいないが、コロナの影響から活動について出来ていないことも多いので、２地区ともに延期についても考えていきたい。

大熊委員）両地区とも、出来なかった原因はコロナで間違いないか。

事 務 局）報告の中で、「やろうと思っても人が集められなかった」との回答もあり、コロナの影響である。

山本座長）オホーツク広域地区の教育旅行の部分について、物は揃えているようだが、実際に出来ているのか。

事 務 局）活動地区からは、コロナの影響で、受入農家さんが受け入れることが出来ないという状況になっていたが、コロナが明けてきたので、そろそろ行くぞという気概が出てきていて、まずは、泊まりで行うのではなく、体験だけでもやってみようという動きになってきていると報告があった。網走に宿泊して、体験は美幌でといったことを模索中。教育旅行部会については、各旅行会社といろいろと話をして、SDGs に対応したメニューの開発も行っている。活動はしていないわけではないが、なかなか人が来れない、４校からの予約も、コロナですべてキャンセルになってしまい、地元もショックが大きかった。人が来ない状況が続くと受け入れ側にも、諦めの気持ちが広がってしまうので、一生懸命引き留めている状況。一度、体験だけでもして楽しかったことを思い出し、活動の活性化につなげていって欲しい。

大熊委員）４校がキャンセルになったといっていたが、すべて道外か。

事 務 局）すべて道外、関西３校、関東１校。

大熊委員）当初、それぞれの市と町の間で温度差があり、足並みがそろわない状況だったが、そこに変化はあったのか。

事 務 局）当初、教育旅行は美幌町と津別町のみ。役場を通して行っていたが、埒があかず、別ルートで講演を行ったところ、やりたいとの希望の声がオホーツク管内でも多数あがった。実施地区でも、手応えを感じているようである。

山本座長）本別地区の街コンイベントが、交流イベントに変更になっているが、どのようなことをするのか。

事 務 局）地域外の方で本別町と少しでも関わりのある方、仕事できた方や、祖先が本別等々を紹介していくようなイベントを計画している。

山本座長）川のゴミ拾いの意図は。

事 務 局）本別町の自然を活かした持続的なアクティビティして、フライフィッシングを考えており、本別公園付近を長い目できれいにしていき、ゴミ拾い自体のアクティビティ化も考えている。

山本座長）本別地区の活動は、計画に沿っているようには感じない。実際の活動に合わせて計画も変更するべき。

大熊委員）本別地区は、５つのラボがそれぞれの活動をしているが、各ラボの活動の温度差はあるのか。

事 務 局）温度差はある。メンバーの意思が統一されず、情報発信部会が止まっている状態。今後、ふる水指導員になっているメンバーが入って、てこ入れをする予定。

（４）その他

ア　事務局から資料７に基づき説明。

イ　質疑応答（有・無）